

2．流域及び河川の自然環境

2 - 1 流域の自然環境

肱川の特徴

肱川流域は、流域面積の約 90%が緑豊かな山地であり、平地は宇和、野村、内子、五十崎、大洲の各盆地にみられるのみで、その他は急峻な地形が河川に接近しており、この状態が河口まで続く全国でも特徴的な流域である。山地部となる大半の地域では、スギ、ヒノキ等の植林地が大半を占め、シイ、アカラシの他、クヌギなどの雑木林が部分的に残されているが、集落がその山間部に点在し、全体的に里山^{*1}的な自然環境を形成している。

1) 優れた景観

肱川流域は、上流の宇和盆地や中流の大洲盆地を除いたほとんどの部分が山林で覆われており、自然が多く残されており、動植物も多く生息している。

これらのことから、盆地部においては人々の生活と自然が程良く調和した里山的景観を演出し、山紫水明な自然景観を形成している一方、大部分の山間部では自然の瀬や淵が多く残されており、景観資源としても優れたものとなっている。



写真 2-1(1)
富士山から眺める大洲盆地



写真 2-1(2)
竜王公園から眺める小田川の流れ
五十崎町方面を臨む

^{*1} 里山：「農山村地域において、その生活資材の時給や農業生産に連動して、継続的に人手の加えられる林地ないし山地。あるいは、村や町の周辺の丘陵地を総称した言葉。」
(自然環境復元入門、杉山恵一)

2) 豊かな生物環境

肱川流域は、標高 1,380m の狼ヶ城山から河口までの約 1,400m の高度差を有し、流域東部の山地はブナクラス域（山地帯：1,000 以上）に、その他の流域の大部分を占める範囲はヤブツバキクラス域（低地帯：標高 1,000m 未満）に属し、ヤブツバキクラス域の代表植生であるオンツツジ - アカマツ郡集、コバノミツバツツジ - アカマツ郡集及びスギ・ヒノキ・サワラ植生が広く分布している。

これらの植生を反映して、陸上動物は平地～低山地を主たる生息域とするタヌキ、イノシシ等が分布している。魚類はほぼ全川にアユ、オイカワ等が分布し、河口周辺には汽水魚が、中流部にはコイ、フナ類が、支川上流部にはアマゴが分布している。



写真 2-2 アユ

出典：肱川うるおいプラン
(肱川水系河川環境管理基本計画)

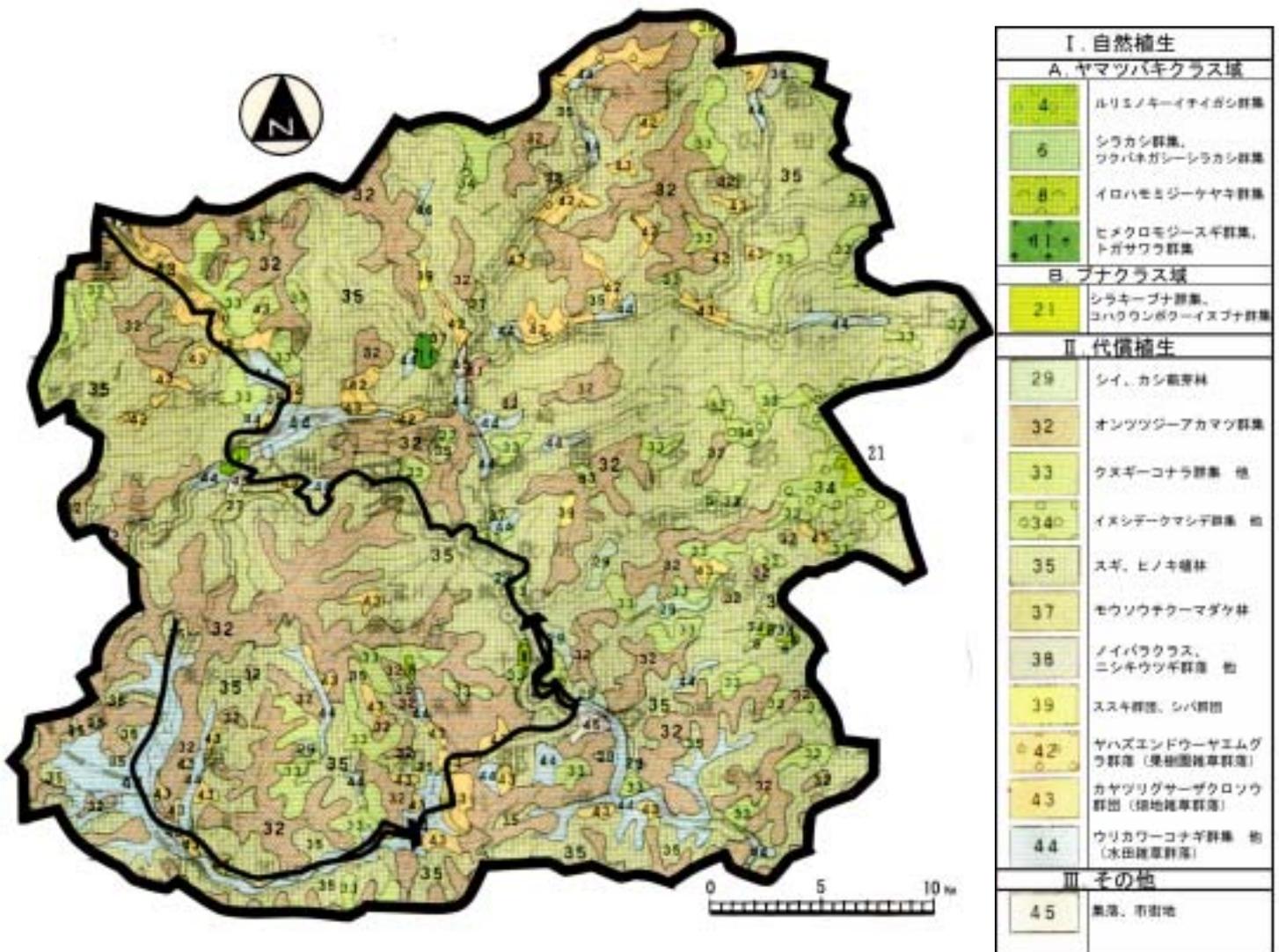


図 2-1 肱川水系植生図

調査者：宮脇 昭・奥田重俊(横浜国立大学環境科学研究センター)
出典：日本植生誌(四国 1982)(株)至文堂

3) 人との共生

肱川は、冬は雪景色、春は咲きそろう花々の景観、夏は鵜飼い、秋は紅色の川面のたたずまいなど四季折々に変化する肱川と周囲の山々とは織りなす水と緑の調和は、豊かで良好な河川景観を創出している。また、名物のサザエ曳などによるカジカ漁も盛んで、河口部では、潮干狩りやアオノリ採りも行われており、これらの風物詩を肱川の瀬・淵が引き立たせ、植生などが彩りを添えている。

このような豊かな自然と情趣ある景観を残す肱川は、清浄な河川水と豊富な生物相とともに、広大な河川空間を有しており、古くから人々の生活の場として、また水や自然と親しむ場やレクリエーションの場として利用されている。

肱川を舞台とした、大洲の鵜飼いや藩政時代から伝わる「いもたき」、花火大会などがあるほか、利用形態別として散策等が圧倒的に多いことから、身近な存在であるといえる。



鵜飼い(榊形)

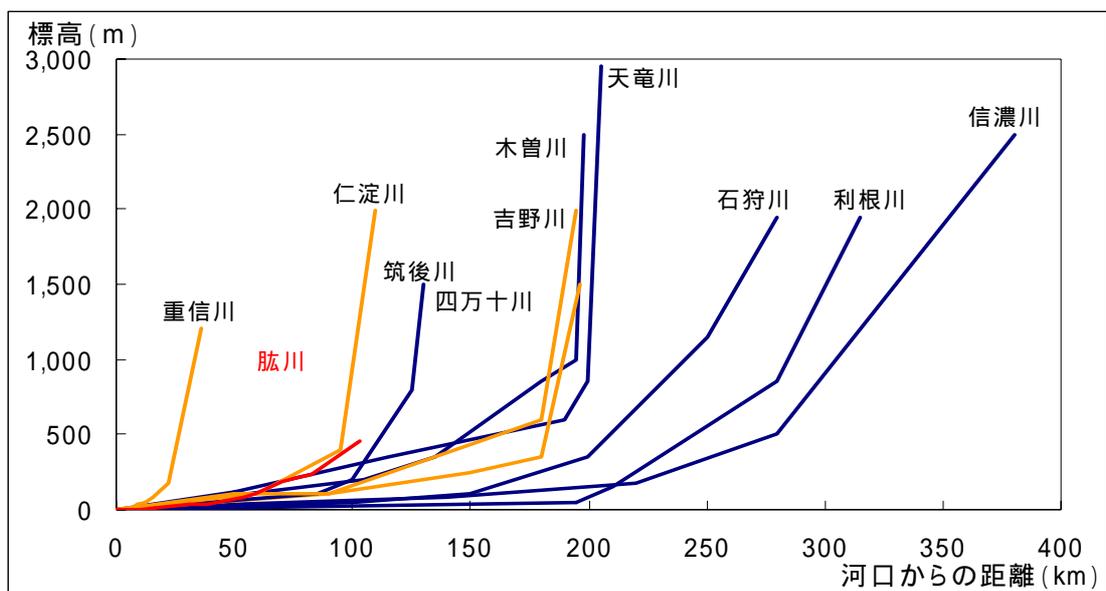


いもたき(如法寺河原)

写真 2-3 肱川と人との関わり

河川の特徴

肱川流域の河川縦断面形をみると、下流感潮区間で 2300 分の 1、祇園大橋～鹿野川ダムで 730 分の 1 から 930 分の 1、鹿野川ダム～野村ダムで 220 分の 1 から 390 分の 1、野村ダム～宇和町下川で 130 分の 1、最上流の宇和盆地で 300 分の 1 から 1000 分の 1 と部分的に勾配が急になる箇所があるものの、河床勾配は概して緩やかである。

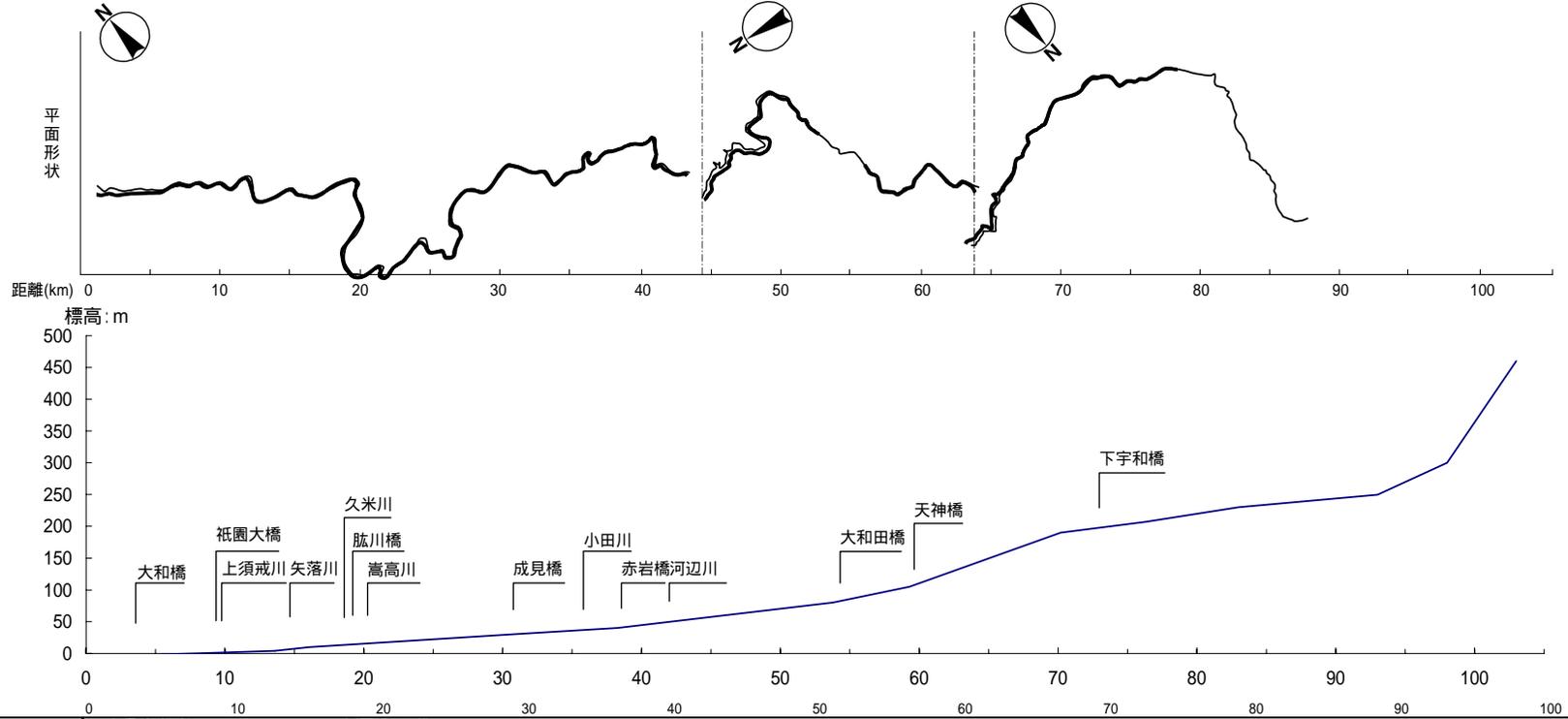


肱川の河床勾配の出典：第3回自然環境保全基礎調査 河川調査報告書（四国版）

図 2-2 肱川の河床勾配を全国主要河川と比較

河川区分の検討シート

- C

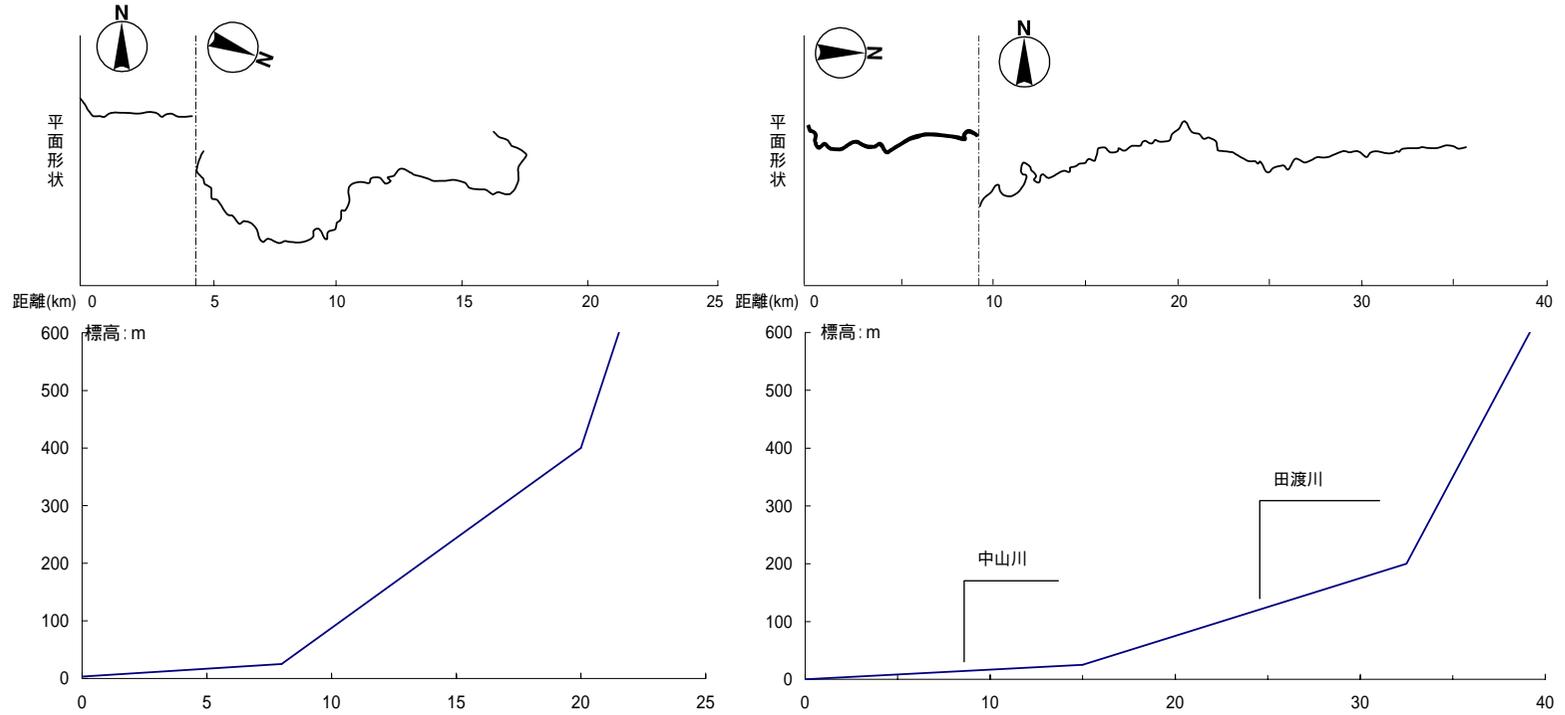


河川区分	上須戒川下流		上須戒川	久米川	高富川・大洲	高富川・大洲	小田川	鹿野川ダム	野村ダム	野村ダム	鹿川源流				
河道状況	周辺地形	山地	平地	山地	平地	山地	山地								
	勾配	1/2300	1/930	1/730		1/750	1/390	1/220	1/130	1/1000	1/300				
	構造物等	大洲床止				鹿野川ダム			野村ダム						
	河床形態	Bc	Bb	Bb-Bc	Bb					Bb-Bc					
景観	肱川あらし	菜の花畑	大洲城址	鶏飼い	臥龍山荘	いもたき	轟きの滝	小藪溪谷	花火大会	樽滝	愛宕山公園	野村ダム公園	開明学校		
生物	ハヤブサ	カワチシヤ	ミソコウジュ	チュウサギ	タコノアシ	ハグロトンボ	カワセミ	ヤマセミ	カワセミ	ヤマセミ	エソヨツメ	オオキンプナ	カゲロウ	ヤリタナゴ	オオムラサキ

図 2-3(1) 肱川河川特性縦断面図(本川)

河川区分の検討シート

- C



河川区分	矢落川区間						小田川区間								
河道状況	周辺地形	平地	山地				平地	平地							
	勾配	1/320	1/50		1/10		1/1000	1/250	1/170	1/100	1/40	1/20			
	構造物等														
	河床形態							B b							
景観	しょうぶ園	臥龍梅					大風合戦	龍王公園	吊り橋	からり			小田川緑地公園	山燈籠祭り	
生物	ツルヨシ	チュウサギ	ハグロトンボ	ムクドリ	ゲンジボタル	ハルゼミ	ゲンジボタル		ハグロトンボ	ゲンジボタル	キシツツジ	カワヤナギ	アカマダラコガネ	世善桜	乳出の大イチョウ

図 2-3(2) 脇川河川特性縦断面図(本川)



河口より上流を望む



河口



白滝: 河口から 6~7K



春賀: 河口から 10~12K



上流より河口を望む

写真 2-4(1) 脛川流域の斜め写真

大洲工事事務所撮影



野村ダム



鹿野川ダム



宇和盆地



五十崎盆地

写真 2-4(2) 肱川流域の斜め写真

大洲工事事務所撮影

2 - 2 河川の自然環境

肱川の自然環境を主に生物の特徴および特定種の存在状況から整理すると、以下のようである。

水中生物

1) 底生動物

本川下流の汽水域では、エビ目、ヨコエビ目、ワラジムシ目などの甲殻綱が多く、本川中流の淡水域では、流れの速い礫底でコガタシマトビケラ（トビケラ目）等が、流れの緩い礫底や砂泥でキイロカワカゲロウ（カゲロウ目）等の昆虫綱などが多く確認されている。また、矢落川においては、コシボソヤンマ（トンボ目）やニッポンホソカ（ハエ目）など緩流域を好む種が多く、本川に比べても出現量が多い傾向が認められる。これは、出水に伴う河床の攪乱頻度が、本川に比べて少なく、極相に達しやすいことが考えられる。いずれも、当地区の環境をよく反映した底生動物相が確認されている。

これまでの直轄管理区間における底生生物調査では 224 種（H10 調査）の底生生物を確認し、特定種としては、ハグロトンボやゲンジボタル等が確認されている。



写真 2-5(1) ゲンジボタル

出典：パンフレット『肱川うるおいプラン』
(肱川水系河川環境管理基本計画)

2) 魚介類

肱川は、潮位差の大きい瀬戸内海に面している。汽水域の大和橋付近でボラやクロダイ、クサフグをはじめ多くの海産魚が確認されていることから、河口域に海産魚が進入しやすい条件を備えているといえる。また、本川から外れたワンド、細流、小支川などからウナギやヤリタナゴ、タモロコなど、本川ではあまりみられない魚類が確認されていることから、ワンドや細流があることによって多様な魚類群集が形成されていることを意味している。これまでの肱川流域における魚類調査では、アユ・ウグイ・カワムツ・ニゴイ・カジカ等 92 種の生息が確認されている。特定種としてはアユカケ・イシドジョウ・イドミミズハゼなどの魚類があげられる。また、野村ダムには海まで下らず湖や流入河川で生活する陸封のアユが見られる。



写真 2-5(2) イシドジョウ

出典：清水 孝昭氏



写真 2-5(3) アユカケ

出典：パンフレット『肱川うるおいプラン』
(肱川水系河川環境管理基本計画)

3) 藻類

肱川には、汽水域の礫底に生育するスジアオノリおよび溪流中に生育するカワノリ等多くの藻類が生息している。



写真 2-5(4) スジアオノリ

出典：大洲工事事務所撮影

陸上生物

1) 植物

肱川下流域は、河川内で植物が定着できる水際部の幅が狭く面積も小さい。河口砂州に海岸砂浜を代表するハマヒルガオ群落やハマゴウ群落などが分布する。2km 付近上流には、塩沼湿地に生育するハマサジやフクド群落が小規模ながら成立する。6km 付近より上流は、水際にツルヨシ群落、その陸側にはヤナギ等の低木・高木群落が形成されるほか、低水路から高水敷にかけてはマダケ・エノキ・ヤナギ林などの河畔林がみられる。河畔林は、鳥類や陸上動物などの生息の場として高く評価されるほか、6km～9km 付近の半日陰地でやや湿気を帯びた土壤環境が保たれている竹林内部には、絶滅危惧種であるマイヅルテンナンショウが自生している。

また、大洲盆地でよく見られるマダケ林は、かつての水防林として植栽されたもので、独特の河川景観を形成している。

矢落川は、取水堰や床止工があることから、砂泥が厚く堆積し、そこにツルヨシ群落やオギ群落が広がっており、本川とは異なる景観を呈している。

これまでの直轄管理区間における調査で約 1,200 種類の生育が確認され、特定種としてはマイヅルテンナンショウのほか、タコノアシやミゾコウジュ等が確認されている。



写真 2-6(1) マイヅルテンナンショウ
出典：大洲工事事務所



写真 2-6(2) タコノアシ
出典：水辺の国勢調査

2) 鳥類

肱川河口付近では、観察される鳥類は少なく、冬季カモメ類がみられる他にはシギ類やヒヨドリなどがわずかにみられる程度である。

これに対し、肱川中流部は多様な自然環境が残されているため多くの鳥類が生息し、高水敷でアマサギ、アシ原でホオジロ、周辺の雑木林でゴイサギのコロニーやシジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ウグイス、水辺でセグロセキレイ、イソシギ、イカルチドリ、キセキレイ、ハクセキレイ、水面でカイツブリやカモ類、農耕地でタヒバリ、ノビタキ、タゲリなど多くの鳥類がみられる。また、カワセミもかなり生息することが確認されている。さらに本来上流域に生息するヤマセミが感潮域でもみられる。直轄管理区間におけるこれまでの調査では 165 種類の鳥類が確認され、特定種としては、ヤマセミ、カワセミ、タゲリなどが確認されている。



写真 2-6(3) カワセミ

3) 哺乳類

肱川には、河畔林の形成とともに、水辺、草地、耕作地等が混在する豊かな自然環境が残されていることから、これまで直轄管理区間における調査で、キツネやタヌキなど 31 種類の哺乳類の生息が確認されている。

4) 両生類、爬虫類

直轄管理区間におけるこれまでの調査で、両生類はアマガエルやツチガエルなど 13 種類、爬虫類はジムグリやアオダイショウなど 16 種類の生息が確認されている。

5) 昆虫類

愛媛県の長い海岸沿いは、温帯性照葉樹林に恵まれ、ヒトハルゼミ、ヨツスジトラカミキリ等多くの暖帯系の昆虫が生息する。また西日本最高峰の石鎚山系は、ツマジロウラジャノメ、スジボソヤマキチョウ、エゾハルゼミ等の北方系種の南限となっている。

肱川直轄区間においては、ヤナギやツルヨシなどの河川区域内の植生条件を反映し、イナズマヨコバイやオオメナガカメムシなどのカメムシ目、ホシササキリやトノサマバッタなどのバッタ目、マメコガネやサビキコリなどのコウチュウ目をはじめとする草地を主たる生息地とする昆虫類が多数確認されている。また、肱川本川の「河畔林 - 草地」や「河畔林 - 草地 - 竹林」などの組み合わせによって林縁環境が形成されている地区において多種の昆虫類が確認されていることに比べ、矢落川のようにツルヨシ等の草地が占める割合が高い地区では昆虫類の種類が少ない。これまでの現地調査により確認された陸上昆虫類等は陸産貝類、クモ類、甲殻類、ムカデ類、昆虫類合わせて約 2,300 種類の生息が確認されており、肱川の自然度の高さを知ることが出来る。特定種としては、ハグロトンボ、ムカシトンボ、オオムラサキ(国蝶)等が確認されている。



写真 2-6(4) ハグロトンボ
出典：パンフレット『肱川うるおいプラン』
(肱川水系河川環境管理基本計画)



写真 2-6(5) ムカシトンボ
出典：パンフレット『肱川うるおいプラン』
(肱川水系河川環境管理基本計画)



図2-4 肱川流域の特定植物群落

No.	項目	出典			
1	ボダイジュ	天			
2	世善桜	天			
3	乳出の大イチョウ	天			
4	イチイガシ	天			
5	ケヤキ2株	天			
6	西禅寺のビャクシ	天			
7	金竜寺のイチョウ	天			
8	ハルニレ	天			
9	東宇和のハルニレ				
10	臥龍梅	天			
11	八幡神社社叢	天			
12	大洲八幡神社社叢				
13	大洲八幡神社社叢の照葉樹林		A・E	A・E	
14	森山のサザンカ	天			
15	イチイガシ	天			
16	三滝城の大イチョウ	天			
17	大野ヶ原の植生	学			
18	大野ヶ原の石灰岩植生		D	D	
19	金山出石寺の植生	学			
20	金山出石寺のアカガシ林		A	A	

出典

- 「天然記念物緊急調査」
- 主要動植物地図- 文化庁1970年
- 天: 国指定天然記念物
- 学: 学術上価値の高い生物群集及び生物
- 「自然環境保全調査」
- すぐれた自然図- 環境庁1970年
- 「第2回自然環境保全基礎調査」
- 動植物分布図- 環境庁1981年
- 「第3回自然環境保全基礎調査」
- 動植物分布図- 環境庁1989年

特定植物群落選定基準

記号	理由
A	原生林もしくはそれに近い自然林
B	国内若干地域に存在するが、きわめて希な植物群落または個体群
C	比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群
D	砂丘、断崖地、塩沼地、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの
E	郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの
F	過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
G	乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
H	その他、学術上重要な植物群落または個体群



図 2-5 肱川流域の貴重な動物

No.	種名	出典	
1	カワウソ		
2	ヤマセミ		
3	ムカシトンボ		
4	ツノクロツヤムシ		
5	矢落川のゲンジボタル発生地	天	
6	ゲンジボタル		指
7	ハッチョウトンボ(?)		指
8	ガロアムシ目		指
9	ハルゼミ		指
10	オオムラサキ		指
11	カワサワメクラチビゴミシ		A
12	アシナガメクラチビゴミシ		A
13	ニセシナクロフカミキリ		A
14	シコクロナガオサムシ		B
15	ツノクロツヤムシ		B
16	オカモツヤアナハネムシ		B
17	シコクヒメコブハナカミキリ		B
18	チュウジョウヒメハナカミキリ		B
19	シコクヒメハナカミキリ		B
20	コジマベニスジカミキリ		B
21	オオシロカゲロウ		B
22	カタツムリビケラ		B
23	シコクアブ		B
24	スジボソヤマキチョウ		C
25	エゾヨツメ		C
26	フタスジカタビロハナカミキリ		C
27	ソウウンアワフキ		C
28	アカマダラコガネ(?)		D
29	ムスジモンカゲロウ		D
30	ハグロトンボ		D

出典

- 「天然記念物緊急調査」
- 主要動植物地図- 文化庁1970年
- 天：国指定天然記念物
- 「自然環境保全調査」
- すぐれた自然図- 環境庁1970年
- 「第2回自然環境保全基礎調査」
- 動植物分布図- 環境庁1981年
- 指：指標昆虫類

?：現地での確認は無く、聞き取り調査による確認や現在も生息の可能性のあると思われる種

昆虫類選定基準

記号	理由
A	日本国内では、そこにしか産しないと思われる種
B	分布域が国内若干の地域に限定されている種
C	普通種であっても、北限・南限など分布限界になるとと思われる産地に分布する種
D	当該地域において絶滅の危機に瀕している種

2 - 3 特徴的な河川景観や文化財等

(1) 特徴的な河川景観とその利用

1) 肱川下流部

河口周辺では、秋から冬にかけての「肱川あらし」に代表される四季折々の肱川独自の水辺の自然景観を垣間見ることが出来る。河口の形態としては全国的にも珍しく、河口部でありながら山に囲まれた狭窄部となっている。またスジアオノリも自生しており、水産資源、稚魚の生育場として重要である。

2) 肱川中流盆地部

城下町として古くから栄えてきた地域であり、大洲城址や臥龍山荘^{がりゅうさんそう}をはじめとして多くの史跡が残り、「小京都」、「水郷」と呼ばれる情緒豊かな風景や、いもたきや鵜飼といった川に係した行事も盛んで、古くからの人と川の結びつきを感じさせる。なお、中流部に大洲盆地が広がり、人口・産業の中心となって栄えてきた地域である。

3) 矢落川流域

肱川支川である矢落川を中心とした流域で、今でも田園的風景を残す地域である。流域の各所にゲンジボタルが生息しており、上流のゲンジボタル自生地はよく知られている。また、下流域はツルヨシ群落等の湿性草本植生が河川区域を覆っているほか、タコノアシ、カワヂシャ、ミゾコウジュ等の貴重種も多種生息しており、本川とは異なる生物相を形成している。

4) 宇和盆地流域

肱川の源流部にあたり、標高 200m ほどの盆地地形をなす。宇和盆地は南予随一の米どころでもあり、溜池と水田の広がるのどかな田園風景を特徴としている。また、古くから人が住み着いた地域であるため史跡や古墳、遺跡などが多く見られ、愛媛県の選定する文化の里のひとつ「宇和文化の里」に選定されるなど、独自の文化と歴史を育んできた地域である。

5) ダム渓谷流域

鹿野川ダム、野村ダムの2つのダム湖を中心とした地域で、幾重にも折り重なるような山間の豊かな自然環境の中に、ダム湖の湖面の静かなたたずまいや、支川域では多彩な渓谷・溪流美を見せている。また、地域内には2つの自然公園があり、鹿野川ダム周辺は肱川県立自然公園に、舟戸川源流部の大野ヶ原は四国カルスト県立自然公園に指定され心和む自然景観を演出している。

6) 小田川流域

肱川流域では大きな支川である小田川と中山川などを中心とした支川域で、小田川下流の内子町には「伝統的建造物保存地区」と称される歴史的な町並みが残されている。また、川沿いには多くの集落があり、それがほとんど源流近くまで続きながら、人と自然の調和した里山的景観を形成している。さらに、上流部には変化に富んだ渓谷や沿川の公園など多くの観光資源が点在している。



図 2-6 肱川流域の自然環境資源

No.	項目	出典	No.	項目	出典
1	記念物的化石の露頭		26	穴神鍾乳洞	
2	構造産地連峰		27	音無の穴鍾乳洞	
3	日本最古シルル紀の化石・岩石		28	大川鍾乳洞	
4	八幡神社社叢		29	黒瀬側洞	
5	金山出石寺		30	観音水	
6	雨乞山		31	穴の御前	
7	雨乞山		32	用の谷溪谷	
8	三滝山		33	三滝溪谷	
9	秦皇山		34	小藪溪谷	
10	壺神山		35	船戸川溪谷	
11	神南山		36	桂川溪谷	
12	高山寺山		37	黒瀬川河成段丘	
13	富士山		38	野村河成段丘	
14	御在所山		39	魚成河成段丘	
15	大判山		40	下宇和河成段丘	
16	鞍掛山		41	鮎返	
17	堂所山		42	白糸の滝	
18	仙波ヶ嶽		43	川上滝	
19	権現山		44	樽滝	
20	小松池		45	不動の滝	
21	小松ガリエ		46	白滝	
22	源氏ヶ駄馬カレンフェルト		47	紅葉滝	
23	小田町洞		48	轟滝	
24	南山洞		49	樽滝	
25	羅漢穴				
26	穴神鍾乳洞				
27	音無の穴鍾乳洞				
28	大川鍾乳洞				
29	黒瀬側洞				
30	観音水				

「自然環境保全調査」
 -すぐれた自然図- 環境庁1970年
 「第3回自然環境保全基礎調査」
 -自然環境情報図- 環境庁1989年



図 2-7 肱川流域の河川区域内の良好な景観地

市町村名	番号	項目	特記事項	備考
長浜町	1	長浜大橋	町内を流れる水量豊富な1級河川である肱川の河口に架かる日本唯一の最古で現役の道路可動橋であり、建造後、すでに半世紀を過ぎた現在も“赤橋”として多くの人に利用され、観光地景勝地としても親しまれている。	肱川0.5km
大洲市	2	臥龍山荘及び亀山公園	清流肱川畔随一の景勝地として大洲市の名勝に指定されている。	肱川左岸19.6～20.0km
内子町	3	田丸橋	麓川にはかつて数多く存在していた屋根付橋のうち現存する唯一のものになった。現在でも生活道として利用され、その美しさに、訪れるカメラマンも多く、地域に保存会も発足している。	麓川0.5km
五十崎町	4	豊秋橋	「ふるさとの川モデル河川」に指定されている小田川にかかる橋で、長さ143.4m、巾は15mで中央にはバルコニーを設置している。竹をイメージした照明灯や柵をイメージしたカラー舗装など、町の特性と周辺の景観に配慮した斬新な橋である。	小田川6.8km
肱川町	5	鹿野川ダム湖	マガモ、カルガモ、オシドリ他の渡り鳥等数千羽が越冬する。冬場はバードウォッチングに好評である。	肱川44.0～49.0km
河辺村	6	御幸の橋(屋根付き橋)	河辺川の上流の神納地区に明治の初期に架設された屋根付き橋があり、愛媛県の文化財に指定されており、多くの人々に親しまれている。	河辺川左岸17.0km
宇和町	7	観音水	全国名水百選に選定されており四季を通じて冷水が流れ、この水を求めて町内外から日に500人前後が訪れている。夏はそうめん流しも始まり地元有志の手作り特産も親しまれている。	肱川支川赤川0.7km
	8	肱川源流の碑	肱川の源流を世間に知らしめるとともに、広く水源の大切さを理解してもらうための碑である。	肱川86.0km
野村町	9	野村ダム湖畔	昭和56年に完成後、県南部唯一のダムとして親しまれ、又、ダム周辺を整備してリゾートとしても活用を図っている。	野村ダム 肱川62.3km
	10	桂川渓谷(滝、樹木)	近隣町村唯一の渓谷で、キャンプ、散策地として親しまれている。	肱川右岸61.8km



1. 長浜大橋



2. 臥龍及び亀山公園



3. 田丸橋



4. 豊秋橋



5. 鹿野川ダム湖



6. 御幸の橋（屋根付き橋）

写真 2-7(1) 肱川流域の河川区域内の良好な景観地



7. 観音水



8. 肱川源流の碑



9. 野村ダム湖畔



10. 桂川溪谷

写真 2-7(2) 肱川流域の河川区域内の良好な景観地

(2) 歴史・文化及び観光

縄文文化の遺跡は愛媛県内に広く分布しているが、南予地域出土の土器は、様式が北九州出土のものとよく似ており、文化の関連が推測される。

紀元前3世紀ごろから、稲作と金属器利用を特色とする弥生文化の時代に進んだが、その遺跡は内海沿岸を主として県内各地にわたっている地方豪族の権威の表徴である古墳は、1,500基ほど知られているが、分布密度は松山平野周辺がもっとも高く南予は低い。

鎌倉時代には河野氏の支配下にあったが、元弘元年(1331)、下野の宇都宮豊房が伊予国守護に任ぜられてここに大洲城を築いた。戦国時代を経て元和3年(1683)、米子から加藤貞泰が6万石で転封され、以来城下町として発展し、流域の大半は大洲藩となった。加藤氏は明治維新を迎えるまで、13代252年間つづいた。一方、上流の宇和町、野村町、城川町は藩政時代宇和島藩に属して個性的な文化遺産を多く残している。

次頁以降に流域の12の市町村の位置・概要、歴史、文化・観光資源を一覧として整理した。

表 2-1(1) 肱川流域自治体の歴史・文化資源

市町村名	位置・概要等	歴史	文化・観光資源
大洲市	<p>県の西部の西部に位置し、肱川流域一帯の中心都市である。市域は肱川沿岸の盆地帯を中心に、四周には 50～500m の丘陵をめぐらし山林地帯に囲まれている。気候は温暖だが地勢の関係から秋から冬にかけて霧が多く独特の叙情的な景観を見せる。</p> <p>大洲市HPより http://www.city.ozu.ehime.jp/wadai/index.html</p>	<p>大洲市周辺は、かなり古くから開拓が進んでいたらしく、高山のメンヒル、魚梁瀬山のドルメンやストーンサークルなども残っている。</p> <p>奈良時代にも寺院などが建立され、平安時代初期、喜多郡は矢野・久米・新谷の3郷に分かれ、久米郷の大洲が政治・政治・経済・文化の中心地となっていた。鎌倉時代には河野氏の支配下にあったが、元弘元年(1331)、下野の宇都宮豊房が伊予国守護に任じられてここに大洲城を築いた。戦国時代を経て元和3年(1683)、米子から加藤貞泰が6万石で転封され、以来城下町として発展し、加藤氏は明治維新を迎えるまで、13代252年間つづいた。明治22年に行われた町村制によって、大洲町と平野・南久米・菅田・大川・柳沢・新谷・三喜・粟津・上須戒の9村が誕生したが、昭和29年9月、これらの1町9村が合併し、県下第7番目の大洲市となった。</p>	<p>見所としては大洲城跡や中江藤樹邸跡、如法寺、八幡神社などの旧跡・古社寺・民族資料を展示する大洲市立博物館(市内中村)があり、森山のザンカと東宇山のハルニレは、県の天然記念物に指定されている。また肱川の支流矢落川の上流部(市内処皆地)にはゲンジボタル(県指定天然記念物)の発生がみられる。</p> <p>*年中行事 大洲神社えびす祭(1月10日) 大洲・八多喜祇園祭(1月22日) 春の観光祭(4月2日) 大洲川祭り(8月3・4日) 元服式(8月5日) 住吉神社夏祭り(8月4・5日) 藤樹忌(8月25日) 新谷稲荷祭り(11月1～10日) 大洲地方秋祭り(11月2日) 大洲総社大明神祭り(11月10日)</p>  <p>大洲川祭り</p>
小田町	<p>県の中央部、上浮穴郡の西端に位置し、北は広田村、東は久万村・美川村・南は柳谷・河辺の両村、西は内子町に各々接している。</p> <p>肱川支流の小田川が中央部を貫流し、町域の大部分が急傾斜地でしめられる純山村である。</p> <p>小田町HPより http://www.town.oda.ehime.jp/</p>	<p>戦国時代には、道後湯築城(松山市)に拠る河野氏の支配下におかれ、近世には大洲藩領とされていた。</p> <p>明治22年、町村制が施行されたとき参川・小田町・石山・田渡の4村となり、昭和18年に石山・小田町の両村が合併して小田町村となり、さらに昭和33年、小田町と参川・田渡の両村が合併して小田町となり今日に及んでいる。</p>	<p>見どころとしては広瀬神社や県指定天然記念物の三鳥神社の大イチョウ、平清盛の娘徳子の開基という寺村の曹洞宗清盛寺などがあり、冬は小田深山に550mのリフト備えたスキー場が開設される。またアメノウオ(アマゴ)の土手焼やたらいうどんなど、素朴な山の味もこの町の名物となっている。</p> <p>*年中行事 新田八幡神社初卯祭(2月初卯の日) 清盛寺観音祭(3月17日) 清盛寺一七夜(7月17日) 新田八幡神社おようか(9月上旬) 田渡八幡例祭(9月3日) 田渡秋祭り(10月29日)</p>
広田村	<p>県の中央部、伊予郡の南東隅を占める山間の村で、砥部町の南につづき、東および南は上浮穴郡、西は喜多郡に接している。石鎚連峰の支脈である北ガ森山脈によって四方を囲まれ、標高280m、総面積の90%以上が山岳地帯となっている。</p> <p>広田村HPより http://www.vill.hirota.ehime.jp/index.html</p>	<p>明治23年、旧大洲藩領の中野川・栗田・玉谷・惣津・多居谷・猿谷・満穂の7大字と新谷藩領の高市を合併して村制をしき、昭和2年、栗田地区を中山町に分割編入し現在に至っている。</p>	<p>見どころとしては、景勝の千波ガ岳、山岳信仰の霊地とされる広田権現山などがある。</p> <p>*年中行事 広田権現山々開き(旧暦6月1日)</p>

<p>中山町</p>	<p>伊予郡南端に位置し、東は砥部町と広田村、北は双海町、南および西は喜多郡内子町にそれぞれ接している。町は肱川の小支流中山川に沿った小盆地にひらけ、周囲には 600～900m の山々が連なっている。</p> <p>中山町HPより http://www.iyonakayama.catwalk.co.jp/event/index1.htm#jump2</p>	<p>藩制時代には中山・出淵・栗田・佐礼谷の4村に分かれて大洲藩に属し、中山は宿場町であった。明治23年の町村制施行の時、栗田村は広田村に編入され、同40年、中山・出淵の両村が合併して中山村となり、大正13年に町制をしいた。その後昭和4年に広田村から栗田地区を編入、さらに同30年、佐礼谷を合併して今日に至っている。</p>	<p>見どころとしては秦皇山や盛景寺、古い石鳥居の遺構(県指定文化財)を残す中山の三島神社、戦国時代、河野氏一族の城戸右京が拠った雨山城跡(町内永木)などがある。</p> <p>*年中行事 夏祭り(7月17日)</p>
------------	--	--	---

表 2-1(2) 肱川流域自治体の歴史・文化資源

市町村名	位置・概要等	歴史	文化・観光資源
長浜町	<p>県の西部、大洲市の北に隣接し、肱川河口に発達した港町で、北は伊予灘に面してひらけ、北方海上約 13km に青島がある。地勢は肱川流域の平坦部を除くとかなりの急峻で、海岸は断層海岸となっているので砂浜は少ない。</p> <p>長浜町HPより http://www.town.nagahama.ehim.jp/</p>	<p>江戸時代には 12 力村に分かれ、新谷藩に属した出島村を除いて、大洲藩領とされていた。長浜には藩の船奉行所がおかれて船の出入りでにぎわい、肱川の上流から伐り出される木材の積出港にもなっていた。</p> <p>明治 32 年(1890)と大正 11 年(1922)統廃合を経て、長浜町および喜多灘・櫛生・出海・大和・白滝の 5 村になったが、昭和 30 年 1 月、それらの 1 町 5 村が合併して今日の長浜町となった。</p>	<p>見どころとしては沖繩観音瑞龍寺、白滝といった古寺、景勝があり、長浜港の南につづく長浜海岸は、夏は海水浴客でにぎわう。青島に伝承される盆踊りは、県の無形民俗文化財に指定されている。また珍しい肱川あらしの現象もよく知られている。</p> <p>* 肱川あらし 伊予灘と肱川上流の大洲盆地との間、夜間に気温の温度差によって生じる現象で、日没 1～2 時間後から翌日の正午にかけて、寒冷多湿の強風が川に沿って伊予灘へ吹き出す。特に霧の発生が多い 10～3 月には巨大な雲海となって奔流し、時には 20m にも達する風速によって海へなだれる。</p>
内子町	<p>県都松山市の南南西約 40km の、山間部に位置する農山村で、東は上浮穴郡小田町、北は伊予郡中山町および広田村、西は伊予郡双海町と大洲市、南は喜多郡五十崎および河辺村にそれぞれ境を接している。</p> <p>内子町HPより Http://www.islands.ne.jp/uchiko/</p>	<p>藩制時代には大洲藩に属し、明治 32 年の町村制実施に当たっては、愛媛県 12 町のうちの一つとしていち早く町制をしき、昭和 30 年 1 月、町村合併促進法に基づいて旧内子町と大瀬・五城・立川・満穂の 4 村が合併、新発足して今日に及んでいる。</p> <p>内子は宝暦のころ(18 世紀)から昭和の初期まで付近に生育するハゼの身を原料として、木蠟・晒蠟の製造が盛んに行われた。内子の町立中央公民館展示室(内子駅から徒歩 10 分)には、当時のハゼ採りやカギや鉄釜、シンダテ、版木などの製蠟用具が集められている。また、製蠟を背景に栄えた旧大洲街道沿いにはなまこ壁の蔵や民家が建ち並び、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。</p>	<p>見どころとしては五穀神社や、弘治 2 年(1556)曾根城主曾根高昌の中興と伝える高昌寺、曾我十朗首塚、夫婦滝、日像(日蓮上人の弟子)の作という版木“恵比寿”さんをまつる恵比寿神社がある。</p> <p>* 年中行事 高昌寺涅槃会(3 月 15 日) 雛おどり(4 月 4 日) 夏祭り(7 月 14・15 日) 笹祭り(8 月 6～8 日) 五穀神社宮相撲(9 月 15 日) 秋祭り神輿行列(10 月 12 日) 恵比寿市(11 月 28 日)</p>
五十崎町	<p>県の中南部、喜多郡のほぼ中央に位置し、肱川上流の小田川にまたがる盆地の町である</p> <p>五十崎町HPより http://www.shikoku.ne.jp/bigkite/kassenn.html</p>	<p>明治 23 年、元古田・大多喜の両村が合併して五十崎村となり、大正 9 年町制をしいた。昭和 29 年 9 月、旧五十崎町と天神村・御祓村が合併して、今日の五十崎町が発足した。</p>  <p>凧合戦</p>	<p>見どころとしては竜王公園や神南山、鎌倉時代の作とみられる阿弥陀如来と両脇侍の古木像 3 体(県指定文化財)をもつ宗光寺(町内吉田)、町立民族資料館などがあり、5 月 5 日の“五十崎の大凧合戦”は県の民族文化財に指定されている。</p> <p>* 年中行事 凧合戦(5 月 5 日) 夏祭り(7 月 19 日) 百八灯籠(8 月 21 日)</p>
肱川町	<p>肱川の上流、大洲市の南東部に接し、南は東宇和郡と接している。</p> <p>四国山脈の支脈にかこまれた山村で、平地は少なく、町域の中央を緩流する肱川の本流と支流河辺川によって三つの地域に分割されている。</p> <p>肱川町HPより http://www.town.hijikawa.ehim.jp/event/kankou3.html</p>	<p>藩制時代は大洲藩に属した。明治 23 年、宇和川・名荷谷・中居谷が合併して宇和川村となり、昭和 18 年、宇和川・河辺・大谷の 3 村が合併して肱川村となった。昭和 23 年、旧宇和川村の大貸・香路の両集落が分離して大川村(現大洲市)に編入され、同 25 年には旧河辺村の一部が分離独立、さらに同 30 年東宇和郡横林郡および貝吹村の一部を編入し、同 34 年 11 月町制を施行した。</p>	<p>見どころとしては鹿野川湖や小藪渓谷、中野三島神社のイチイガシ(県指定天然記念物)・猿ヶ滝城跡などがあり、大谷文楽と山鳥坂の鎮縄神落は県の無形民族文化財に指定されている。</p> <p>* 年中行事 観光栗ひろい(9 月下旬～10 月下旬)</p>
河辺村	<p>県の南部、喜多郡の南東端に位置し、肱川上流の支流河辺川に沿う山村。海拔 300～700m の山岳地帯で、河辺川流域にわずかに耕地がみられる。冬季は降雪が多く、根雪が 2 月下旬まで残る。</p> <p>河辺村HPより http://www.vill.kawabe.ehime.jp/kanko/resort01.html</p>	<p>昭和 26 年 1 月、当時の肱川村から分離して誕生した村で江戸時代には大洲藩領だった。</p>	<p>見どころとしては用の山渓谷や雨乞山、天神神社、北平中の森のシラカシ(県指定天然記念物)などがあり、山鳥坂に伝承される鎮縄神落は、県の無形民族文化財に指定されている。</p> <p>坂本龍馬の土佐藩脱藩をテーマにした記念館もある。</p> <p>* 年中行事 かわべふるさと祭り(8 月中旬) 渓流釣り大会(9 月下旬) 春日神社例祭(10 月 26 日)</p>

表 2-1(3) 肱川流域自治体の歴史・文化資源

市町村名	位置・概要等	歴史	文化・観光資源
宇和町	<p>県の南西部に位置し、東は野村町、西は三瓶・明浜の両町、北は大洲・八幡浜の両市に接している。周囲を山地に囲まれた盆地の町で、中央を宇和川が貫流し、深川・岩瀬の両支流を合流して野村町に流出している。</p> <p>宇和町HPより http://www.islands.ne.jp/uwa/tourism/chouei.html</p>	<p>宇和町は古代にも文化が栄えていたらしく、古代遺跡からは青銅器の出土も見ており、また小森の古墳をはじめ幾多の古墳も残っている。大化改新(645)の後、伊予国は14郡とされたが、この地は宇和郡に属してその中心となっていた。</p> <p>嘉禎2年(1236)西園寺氏の所領となり、平安末期から戦国時代にかけては、岩瀬山に築かれた西園寺氏の居城松葉城の周辺に城下町が形成され、南予における中心地となっていた。</p> <p>天文年間(1532～55)西園寺氏は黒瀬山に城を築き町も移したが、豊臣秀吉の四国平定後は、宇和郡の中心は宇和島へ移った。</p> <p>藩制時代は宇和島藩に属して明治を迎え、明治23年の町村制実施のとき宇和町と上宇和村になった。大正12年この2町村が合併して宇和町となり、昭和29年3月、多田・中川・石城・下宇和・田之筋の5村を併合、昭和33年に大洲市の一部を編入して今日に及んでいる。</p>	<p>見どころとしては法華津峠や明石寺、歯長寺、小森古墳などがある。古い家並みを残す卯之町市街は県指定の“宇和文化の里”とされ、開明学校・申議堂・高野長英の隠れ家といった文化遺産の整備修復がはかられている。</p> <p>*年中行事 納涼まつり(8月6・7日)</p> 
野村町	<p>県の南部に位置し、東は城川町および高知県、西は、宇和町、南は北宇和郡、北は宇和郡と大洲町に、いずれも山地の尾根で境している。町域は東西約60km、南北は最大幅約4kmという細長い形をしており、中央部を流れる宇和川に数条の支流が注ぎ、尾根谷が入り組んで複雑な地形を見せている。</p> <p>野村町HPより http://www1.pasutel.co.jp/nomura/</p>	<p>この地方は古代、宇和荘に属し、平安末期には池大納言頼盛(平清盛の異母弟)の所領とされ、中世には松葉城西園寺氏が統括。江戸時代には宇和島藩領とされていた。</p> <p>明治22年(1889)の町村制実施に際して野村・溪筋・中筋・貝吹・横林・惣川の6村が分立。大正11年、野村が町制をしいて野村町となり、昭和30年2月、旧野村町と溪筋・中筋・惣川の3村、および貝吹・横林両村の大部分が合併して、今日の町域が確定した。</p>	<p>見どころとしては、乙御前の滝・大野が原・愛宕山公園・羅漢穴・ばら大使堂・仙貨居士の墓といった旧跡・景勝がある。</p> <p>*年中行事 のむらダム祭り(5月3日) 竜王祭(5月18日) 夏祭り盆踊り・花火大会(8月14日) 弁天祭り(8月上旬) 秋祭り(10月25日) 乙亥相撲(11月27・28日)</p> 
城川町	<p>県の南西部に位置する山村で、北から西にかけては野村町、南から西にかけては北宇和郡に接し、東は高知県につづいている。</p> <p>地勢は四国山脈とその支脈に囲まれて起伏がげしく、標高100～110mの支流に沿ってわずかに耕地が見られる。</p> <p>城川町HPより http://www.town.shirokawa.ehim.jp/</p>	<p>明治23年、町村制の実施により、遊子川・土居・高川・魚成の4村として発足し、昭和29年合併して黒瀬川村となったが、同34年4月に町制をしき城川町となった。</p>	<p>見どころとしては三滝城跡や多くの古文書(顕手院文書・県指定文化財)をもつ魚成の曹洞宗顕手院、下部三畳紀に属するミーコセラス・アナピリテス類の化石を含有する田穂の石灰岩(県指定天然記念物)、わが国最古の地層というゴトランド紀石灰岩(県指定天然記念物)などがある。また遊子谷の七鹿踊りと窪野の八つ鹿踊りは県の無形民族文化財で、遊子谷の神仏講の習俗は、国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民族文化財に選定されている。</p> <p>*年中行事 龍沢寺花祭り(4月8日) 三滝神社春季例祭・窪野八つ鹿踊り(4月17日) 御田植祭(7月第一日曜日) 遊子谷七鹿祭り(天満神社、10月25日)</p>

2 - 4 自然公園等の指定状況

自然公園

自然公園法及び県立自然公園条例による自然公園地域は下図に示すとおりである。自然公園法による国立公園の指定地域は肱川流域内では2ヶ所あり、大洲市の一部が瀬戸内海国立公園に指定されているほか、宇和町の一部が足摺宇和海国立公園に指定されており、いずれも特別地域となっている。

また、県立自然公園条例による県立公園の指定地域は、肱川町の肱川を含む地域が肱川県立公園となっているほか、小田町、野村町の一部が四国カルスト県立自然公園、中山町の一部が皿ヶ嶺連峰県立自然公園となっており、いずれも特別地域に指定されている。

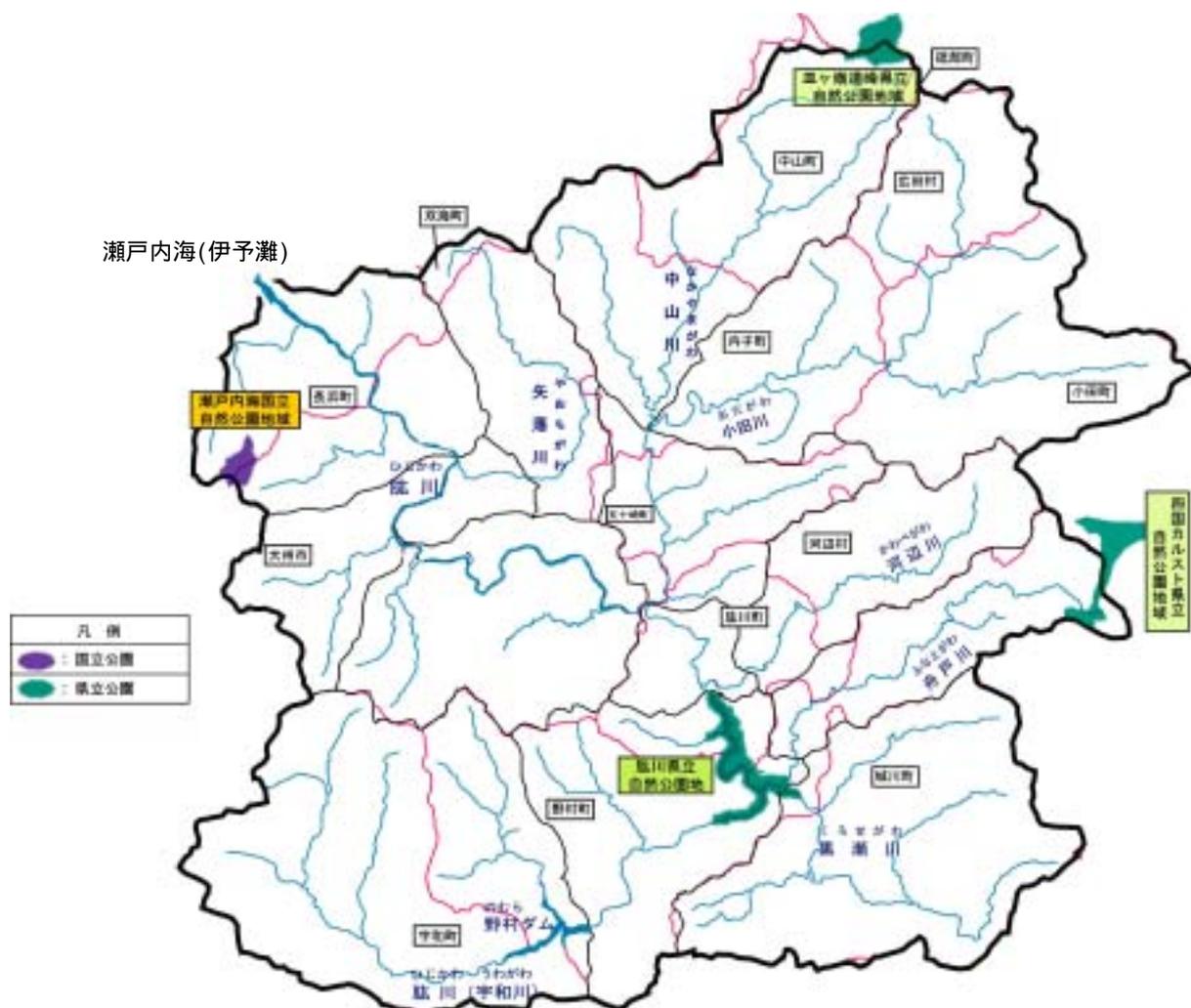


図 2-8 肱川流域における自然公園

イベント

肱川流域では、河川を活かしたさまざまなイベントが行われている。



【鵜飼い】

大洲市有数の観光行事である「鵜飼い」では、期間中多くの人々が、水郷大洲の情緒を楽しんでいる。

周囲が漆黒に染まると、あかあかとかがり火をともした鵜船が登場、黒装束の鵜匠が数羽の鵜を見事な手綱さばきであやつる。鵜船と観覧船が併走し、観客の拍手と鋭い眼光の鵜が織りなす水上ショー。

大洲でしか味わうことのできない夏の夜の一時。



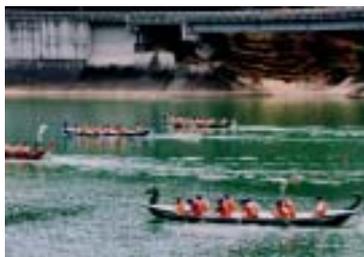
【いもたき】

河原に心地よい夜風が吹く頃「いもたき」が始まる。肱川流域随一の景勝地「臥龍淵」に臨む如法寺河原で、名月を愛でながら鍋を囲み、大洲特産の夏芋に舌鼓を打って、酒を酌み交わす。昔から、大洲に残る風習を昭和41年に観光事業化した「いもたき」は、元祖の名にふさわしい秋の宴で、毎年8月下旬から10月中旬頃まで開催されている。



【花火大会】

山々にこだまする花火は、その轟音で知られている。川面に映る3,000発の花火は、水郷大洲ならではの光と音の共演である。期間 毎年8月3日・4日。



【ドラゴンボート大会】

鹿野川湖は、年間を通し、ボートの練習をする人や、ヘラブナ釣りを楽しむ人の姿が見られる。また、町内外から多数のチームが参加して、龍を象ったボートを使ったドラゴンボート大会が盛大に開催されている。



【バードウォッチング】

肱川町のほぼ中央に位置する鹿野川ダム湖には、毎年1千羽以上のオシドリが飛来している。多い年には3千羽。環境庁から希少種に指定されているオシドリは全国でも1万羽前後しか生息していないという。多い年には日本の3分の1が肱川に飛来していることになる。



【しゃくなげまつり】

丸山公園にはしゃくなげ、エビネや様々なつつじが植えられている。毎年これらの花が見事に咲き乱れる頃に行われるしゃくなげまつりには町内外から多くの人々が訪れ、美しく咲く花を觀賞しながら楽しいひとときを過ごしている。



【つつじまつり】

大洲市のほぼ中央に、優雅にそびえたつ富士山はつつじの名所。満開を迎えるゴールデンウィーク期間中には西日本有数の見事な景観を求めて、県内外から約10万人の観光客がおとずれている。毎月4月25日～5月15日まで「つつじまつり」が開催される。

<http://www4.ocn.ne.jp/~ozutochi/month05.htm>

観光

肱川流域・大洲肱川地区における観光客は図 2-9 によると、微増傾向にあり 200 万人程度である。図 2-10 には肱川流域の観光資源を示した。

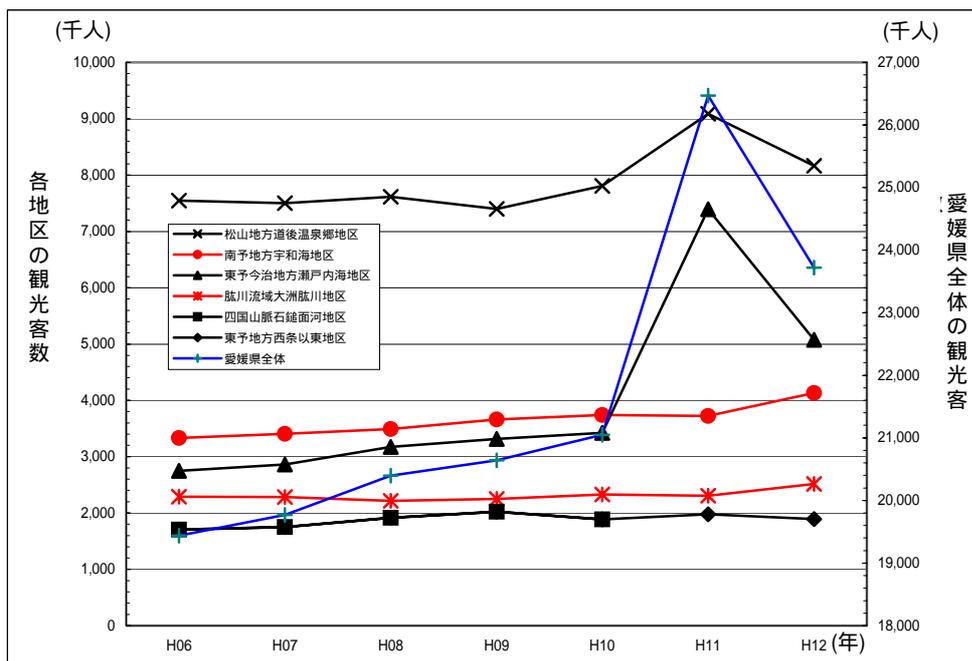


図 2-9 観光地区別県内観光客数の推移 出典：愛媛県統計年鑑



図 2-10 肱川流域の主な観光資源 各市町村パンフレット等より作成